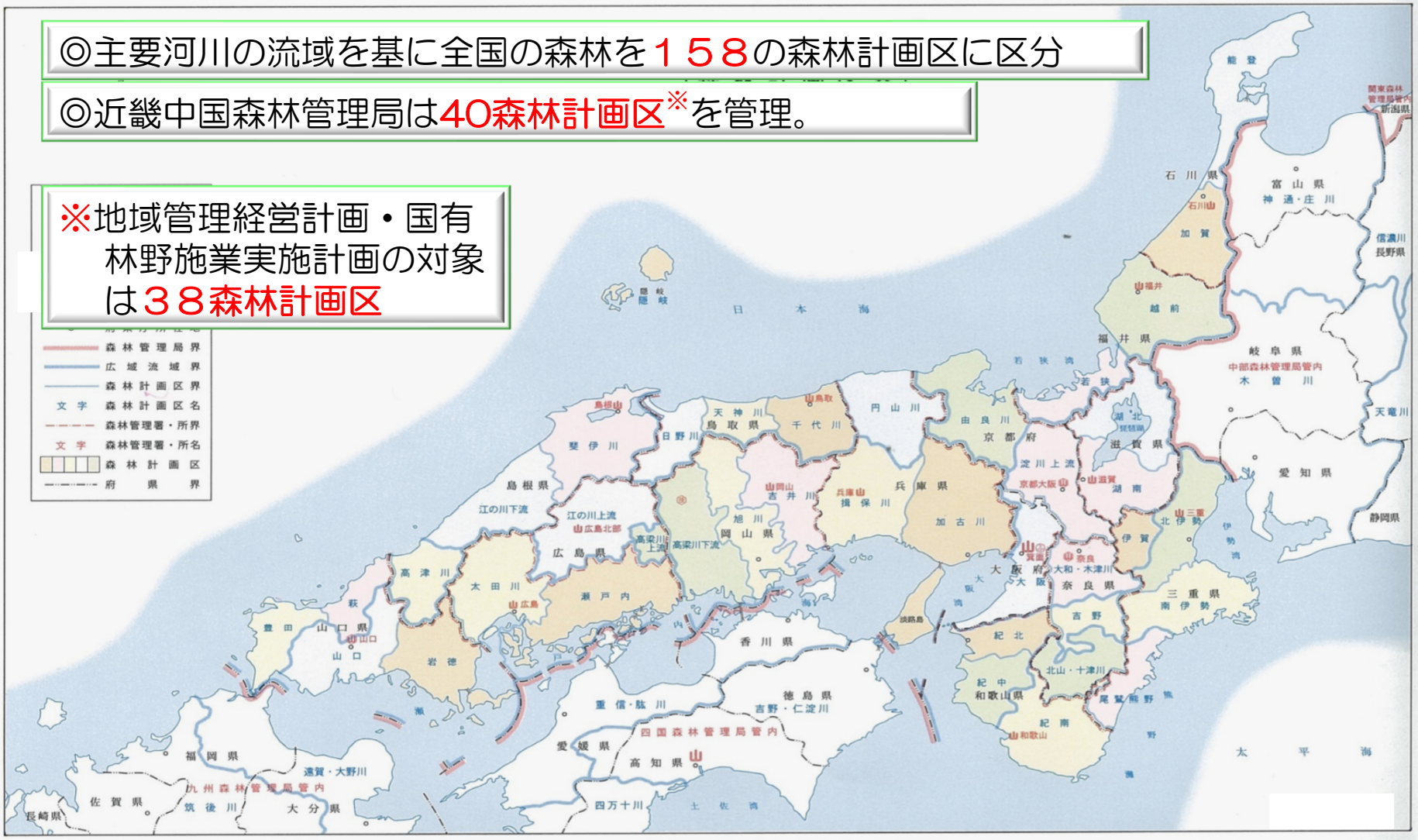
# 国有林における森林計画

# 近畿中国森林管理局管内の森林計画区とは

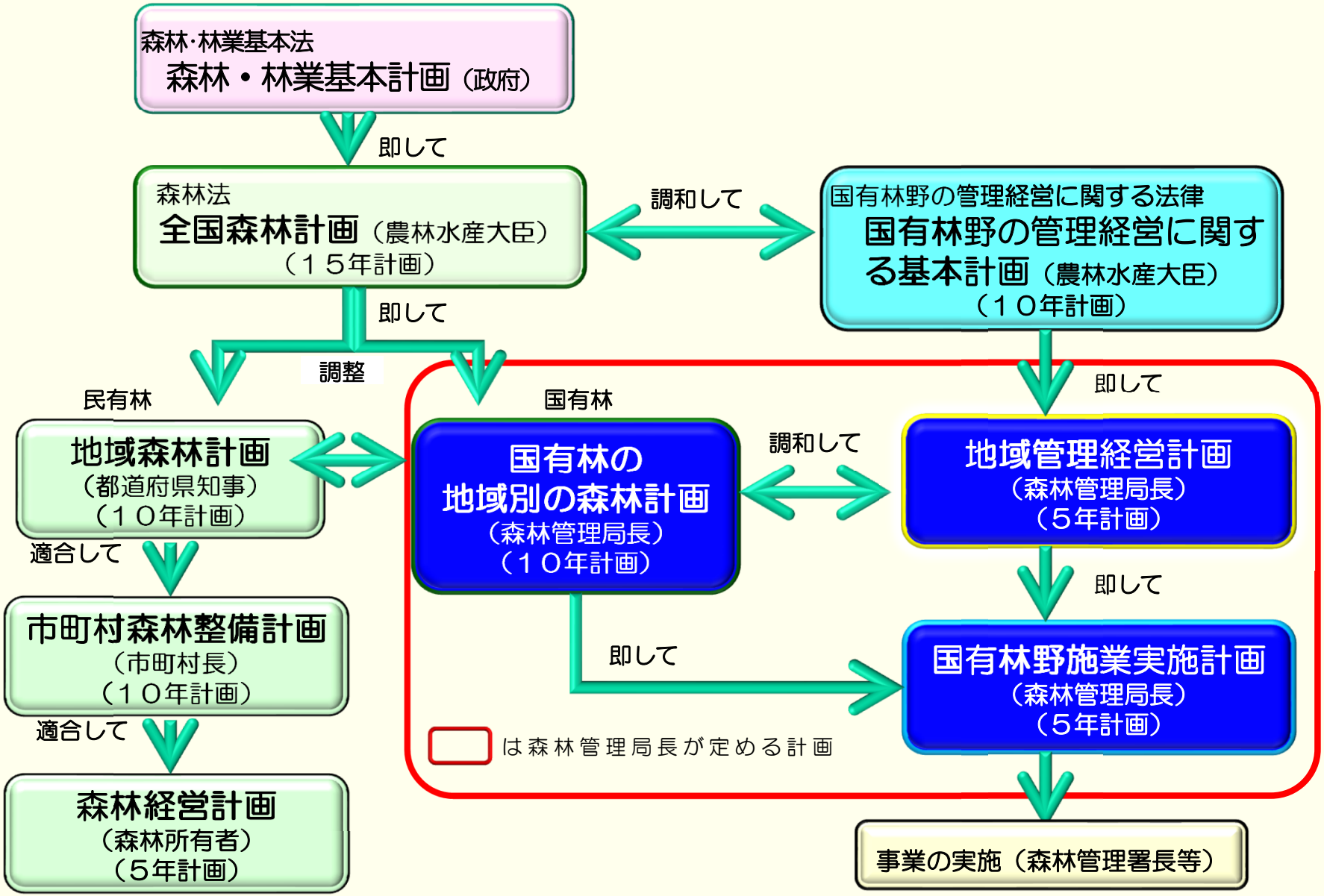
◎主要河川の流域を基に全国の森林を１５８の森林計画区に区分

◎近畿中国森林管理局は40森林計画区※を管理。

※地域管理経営計画・国有林野施業実施計画の対象は３８森林計画区

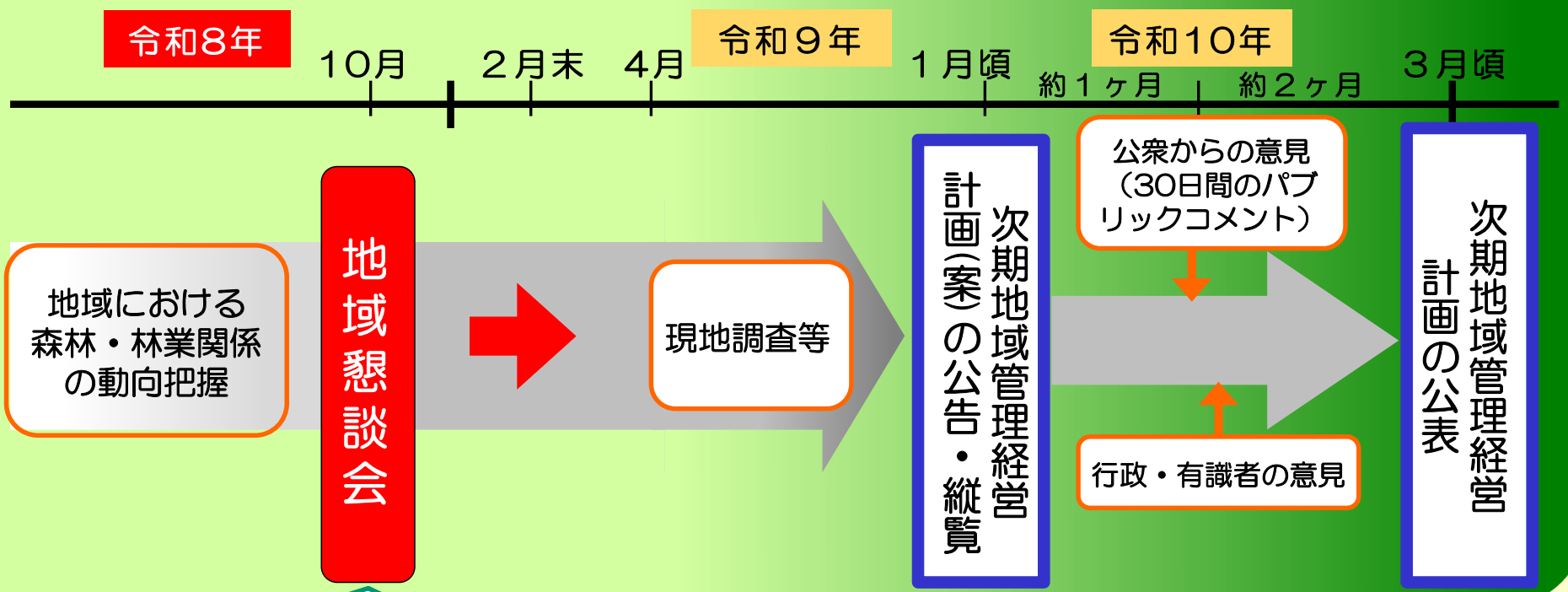


# 国有林で作成する森林計画



# 地域懇談会の位置づけ

## ●地域管理経営計画の策定スケジュール




目的
　地域管理経営計画等の計画策定手続き前に地域の方々から計画検討の参考となる意見を幅広く収集

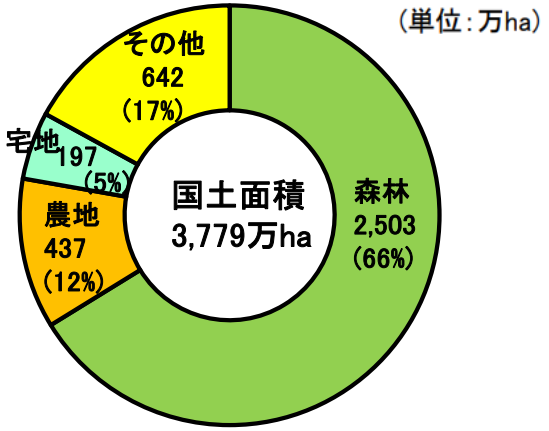
# 説明事項

- ○　森林と林業の現状
- ○　地域管理経営計画の概要
- ○　吉井川森林計画区における国有林の特徴的な取組
- ○　次期計画の検討方向

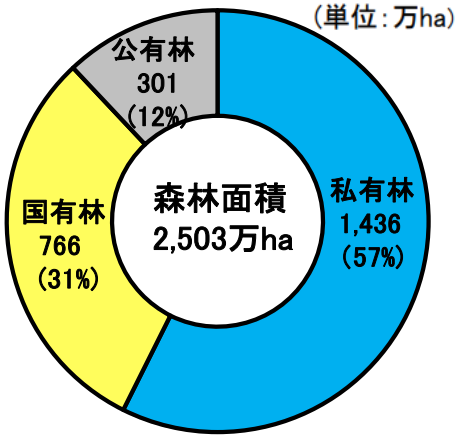
# 我が国の森林と国有林

- ○ 日本の森林面積は国土の約６６％
- ○ 森林面積約２,５００万haうち国有林は約７６６万ha（約31％）
- ○ 近畿中国森林管理局所管の国有林は約31万ha

## 国土面積と森林面積の内訳

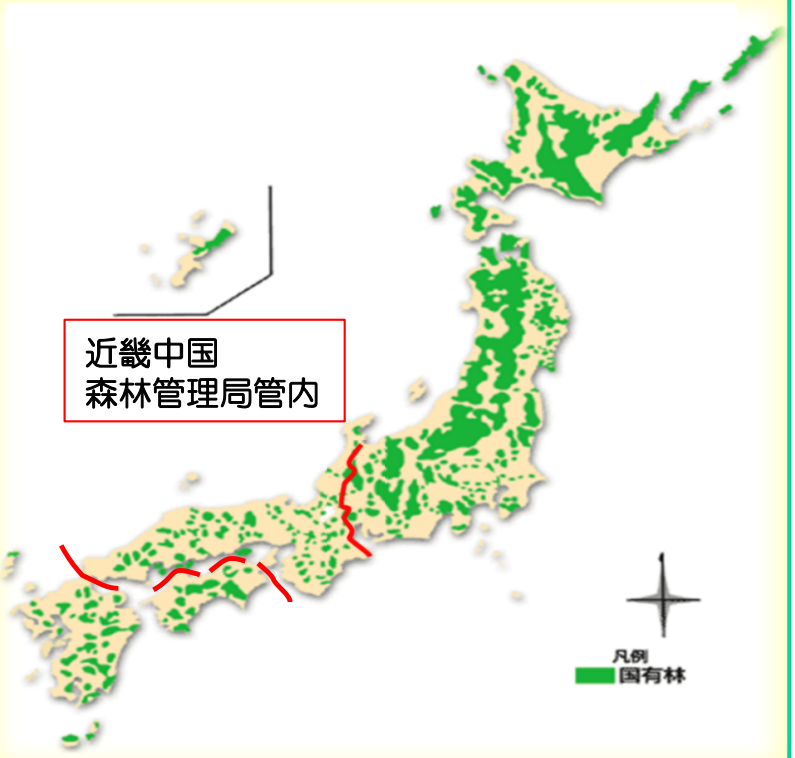



資料：国土交通省「令和6年度版土地白書」
（国土面積は令和2年の数値）
注：林野庁「森林資源の現況」とは森林面積の調査手法及び時点が異なる。



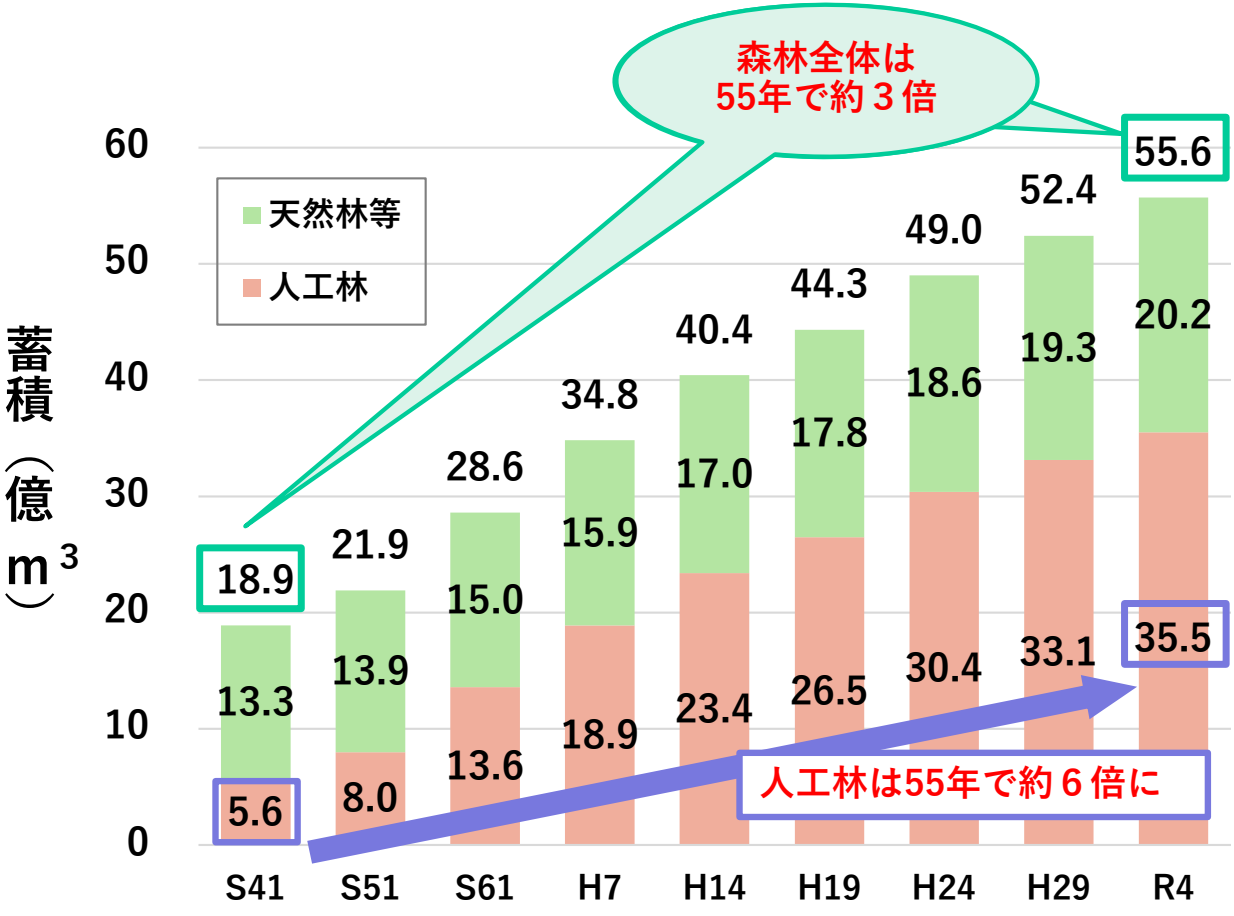

資料：林野庁「森林資源の現況」
（令和4年3月31日時点）
注1：林野庁「森林資源の現況」とは森林面積の調査手法及び時点が異なる。

## 国有林野の分布状況

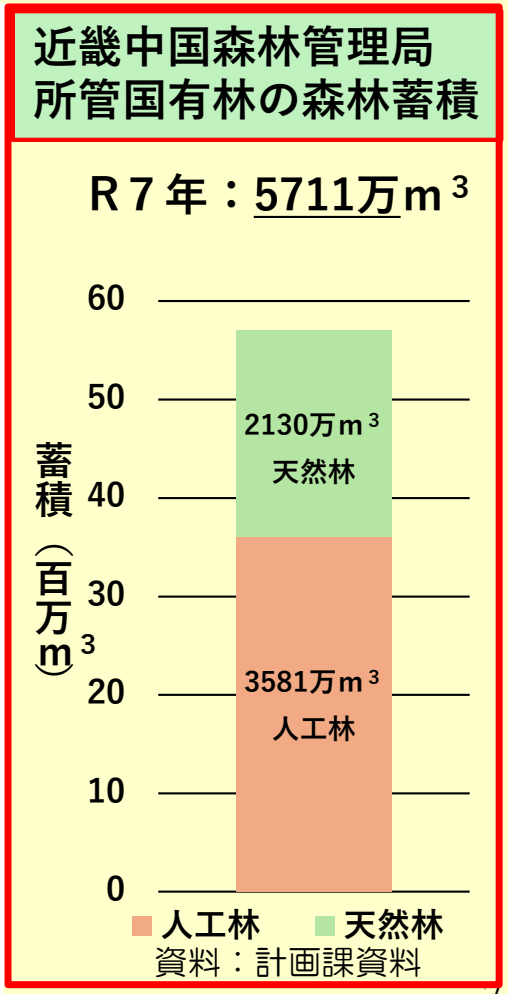


# 我が国の森林と国有林

○ 森林の蓄積は約56億m³、蓄積は年間３～６千万m³で増加傾向
○ 55年かけて森林全体では3倍、人工林は約6倍の量に！



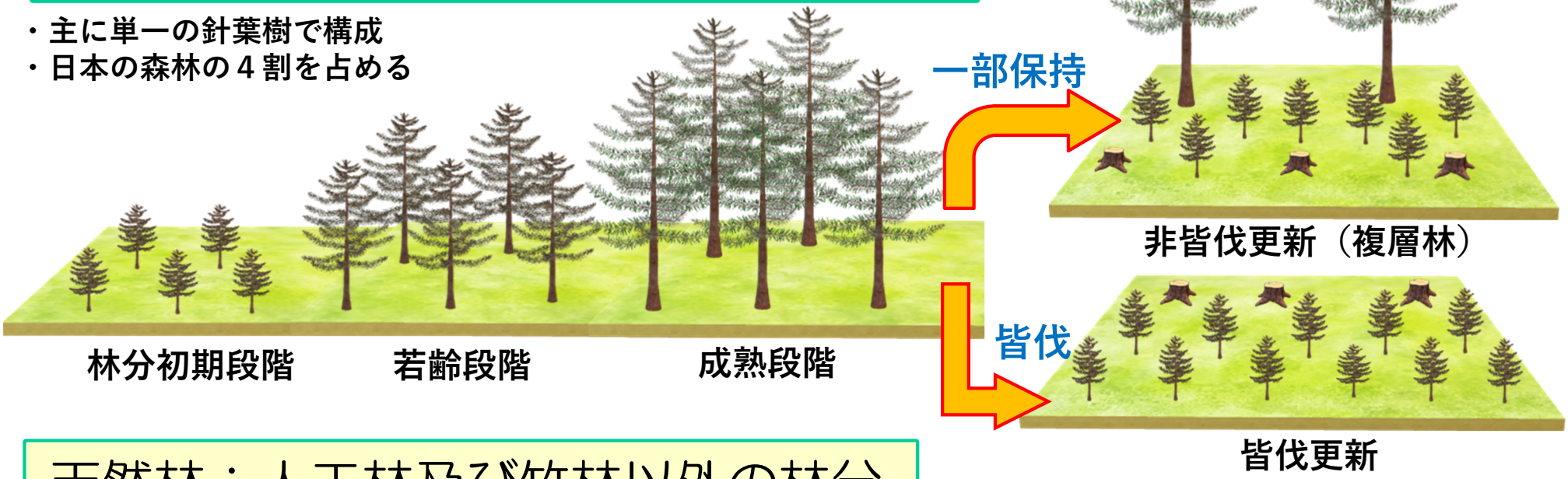

資料：林野庁「森林資源の現況」（令和4年3月31日現在）・林野庁業務資料



# 人工林と天然林

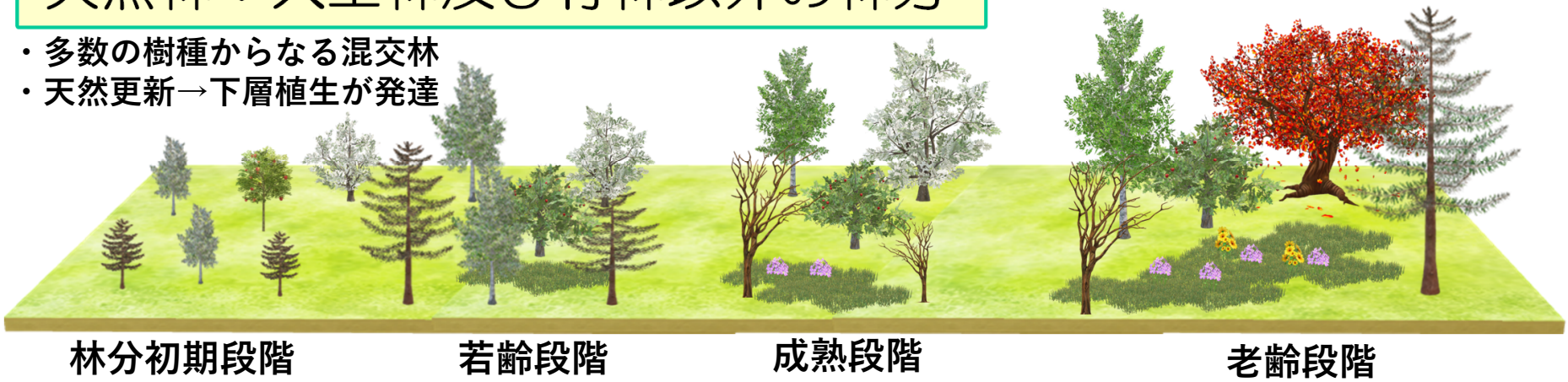
## 人工林：人工造林により造成した林分

・主に単一の針葉樹で構成
・日本の森林の４割を占める




## 天然林：人工林及び竹林以外の林分

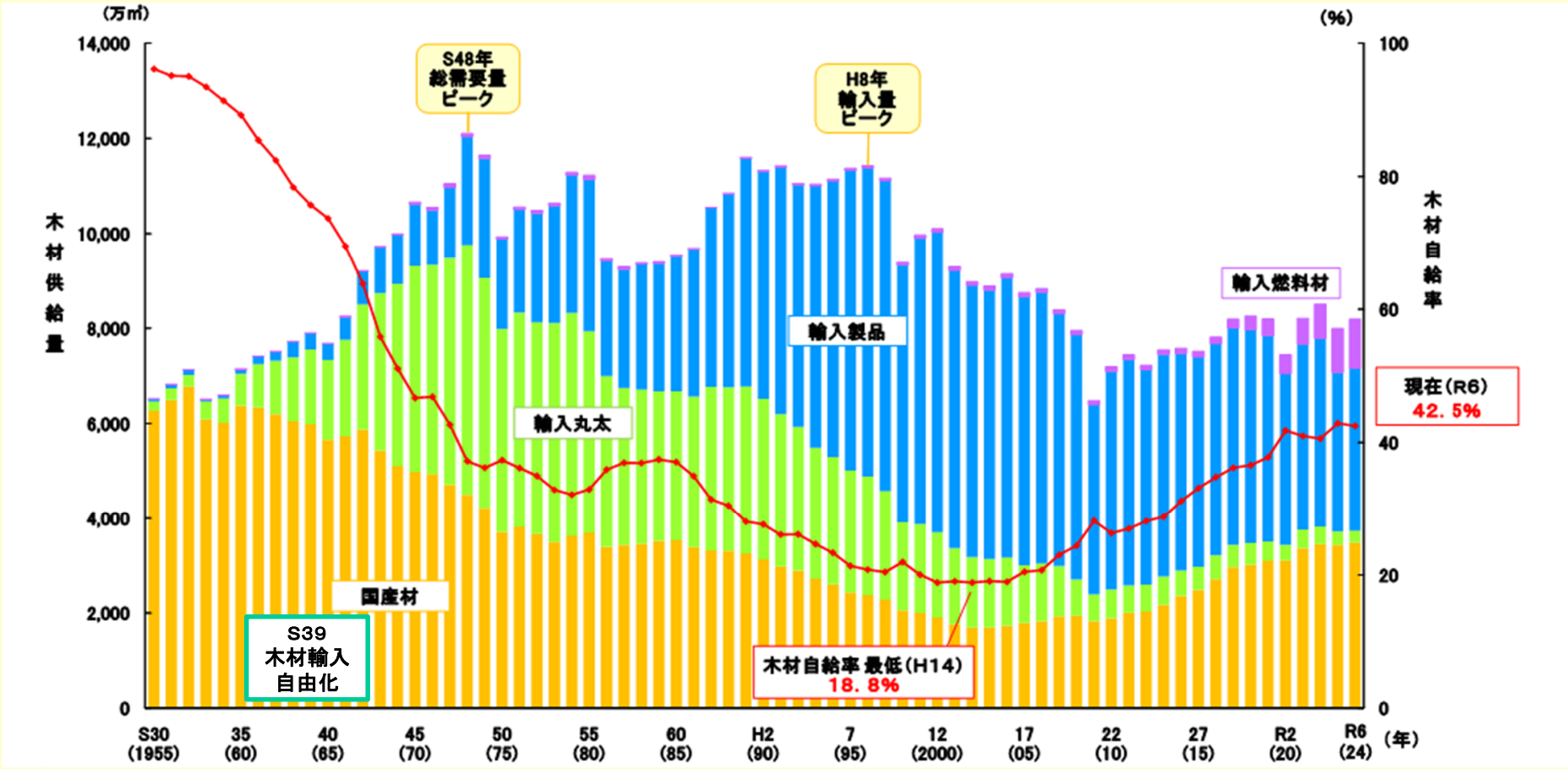
・多数の樹種からなる混交林
・天然更新→下層植生が発達



# 木材供給量と自給率

○国産材の供給量は、森林資源の充実や合板への利用増加等を背景に、近年はやや増加傾向にあり、木材自給率は42.5%に回復

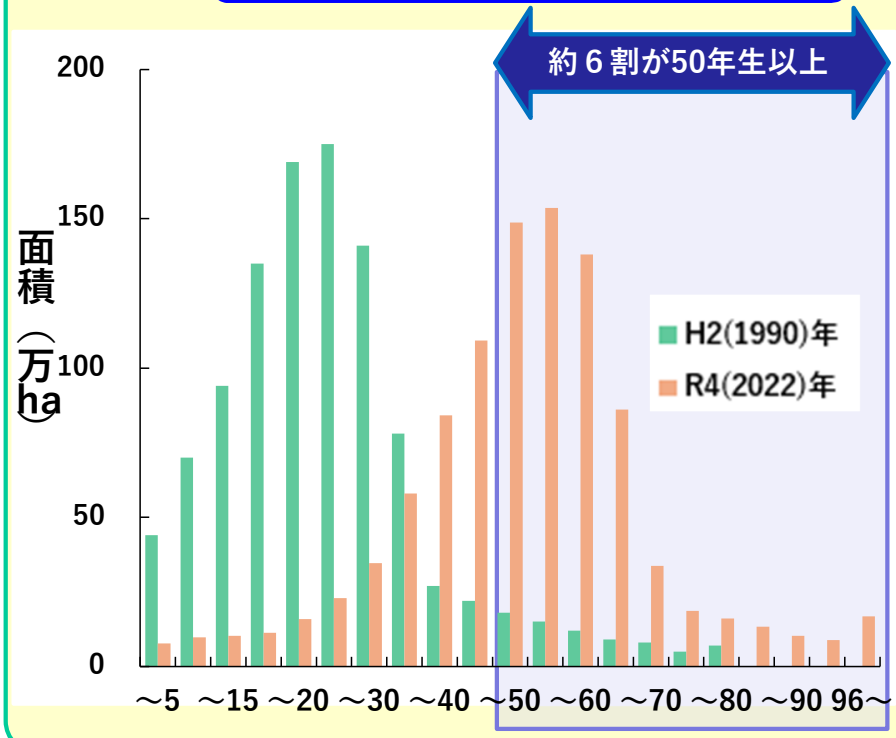
## 木材供給量と自給率の推移



# 森林資源の循環利用

〇森林の蓄積は年々増加するとともに、人工林の約６割が50年生以上となっており、木材としての本格的な利用期を迎えている。
〇森林の有する多面的機能の発揮、林産物の安定供給を両立するため、伐って、使って、植えて、育てる「資源の循環利用」が必要

## 人工林の齢級別面積




## 森林資源の循環利用



# 森林と林業の現状⑤

## 森林・林業基本計画 ～百年つづく森の国・木の街へ～ （令和8年6月閣議決定）

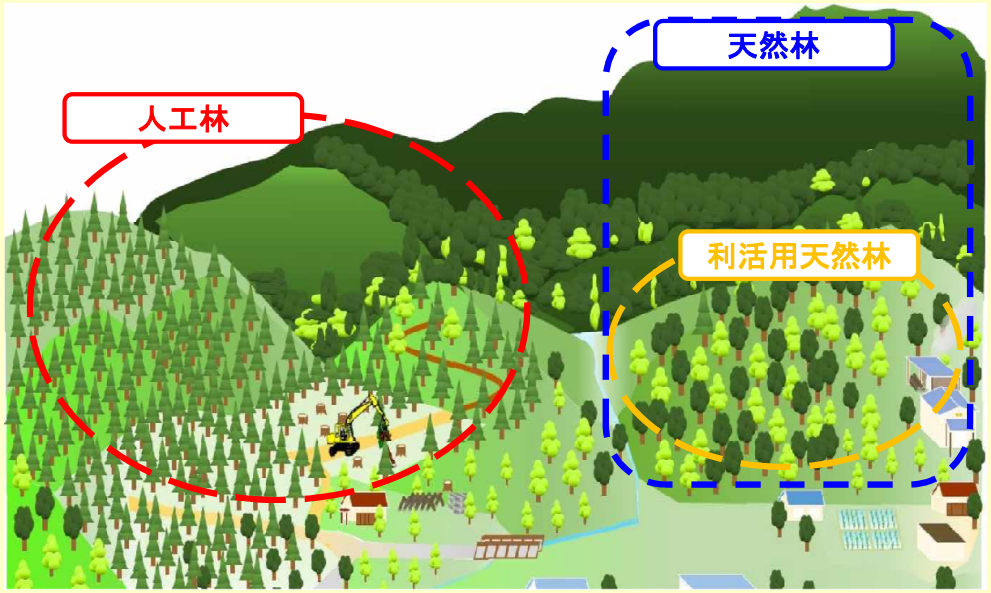
### 森林の有する多面的機能の発揮に関する目標

多面的機能が持続的に発揮される「指向する森林の状態」に向け、望ましい森林の整備・保全が行われた場合に見込まれる5年後、10年後、20年後の状態を目標として設定

＜森林の有する多面的機能の発揮に関する目標＞

| | R7年（現況） | 目標とする森林の状態 | | | 指向状態（参考） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | R12年 | R17年 | R27年 | |
| 森林面積(万ha) | | | | | |
| 人工林 | 1,020 | 1,010 | 1,000 | 980 | 630 |
| 天然林 | 1,490 | 1,500 | 1,510 | 1,530 | 1,870 |
| うち、利活用等により機能の維持増進を図る天然林 | 110 | 130 | 150 | 190 | 520 |
| 合計 | 2,500 | 2,500 | 2,500 | 2,500 | 2,500 |

＜多面的機能が発揮される森林＞




注 1：森林面積は、10万ha単位で四捨五入している。
2：人工林には伐採跡地を、天然林には竹林及び未立木地を含む。
3：目標とする森林の状態及び指向する森林の状態は、R7年（現況）を基準として算出。
4：現況は令和7年4月1日現在の数値。
5：利活用等により機能の維持増進を図る天然林の現況は、天然林のうち人為により成立しているものを集計。

# 多様な森林への推進イメージ

## 多様な森林づくりの推進

□ 森林の多面的機能の発揮に向けては、多様な森林の配置となるよう、森林の発揮する機能に応じたゾーニングに取り組みつつ、主に植栽により成立している森林（人工林）と、主に天然更新により成立している森林（天然林）のそれぞれについて、機能に応じた森林の整備・保全を推進することが重要。

■ 多様な森林づくりの推進（イメージ）




**Point**

➢ **森林計画制度に基づくゾーニング等**

・発揮する機能に応じたゾーニング

・モニタリング調査による森林生態系の持続性の確認

**Point**

➢ **人工林における多様な森林整備の推進**

・様々な生育段階や樹種から構成される森林に向けた多様な森林整備

（林業適地における再造林）

**Point**

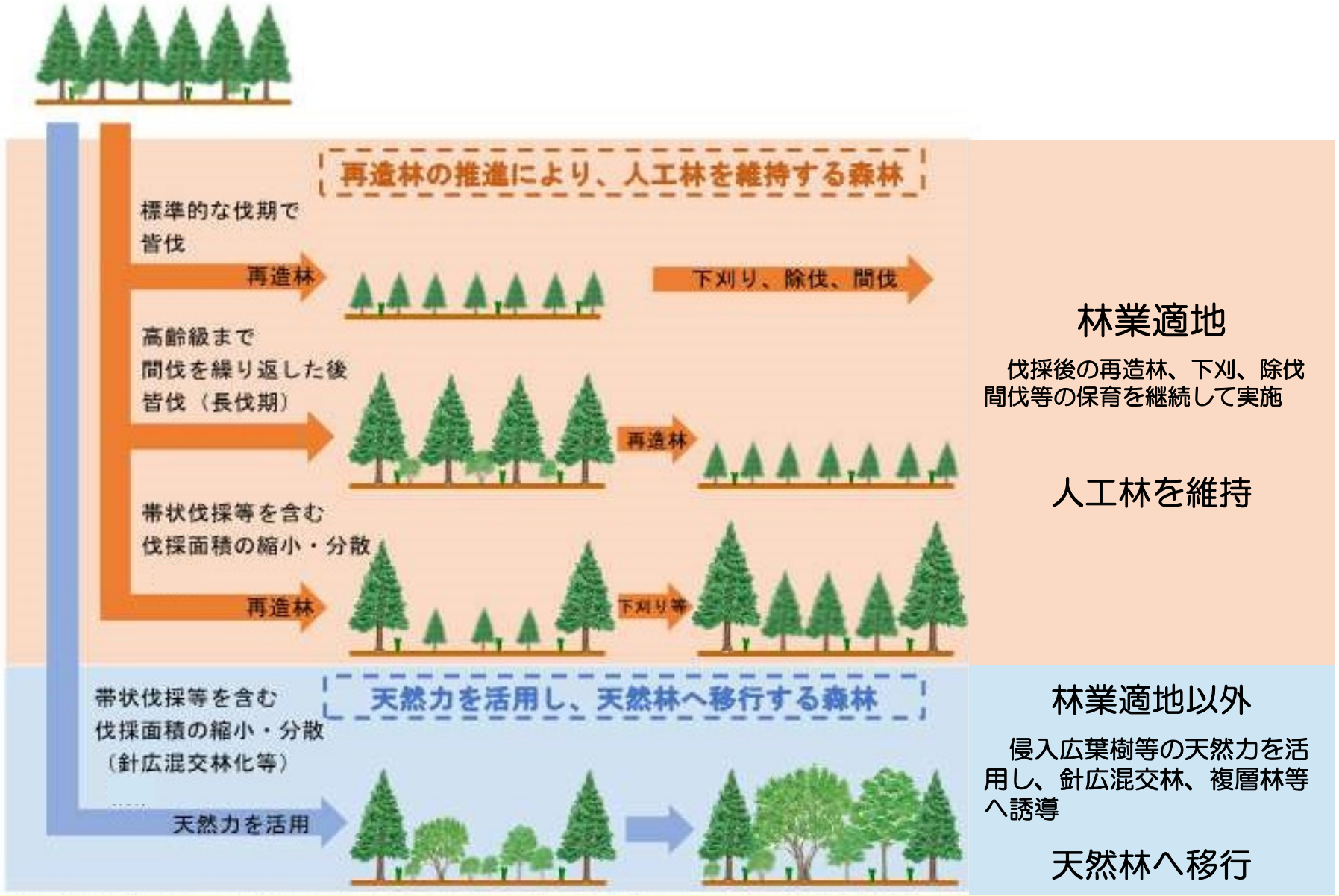
➢ **天然林の整備・保全の推進**

・里山林等における広葉樹林や森林空間等の利活用

・原生的な天然林等における保護・管理等

**これらにより、多様な森林の配置と機能に応じた森林の整備・保全を推進**

# 人工林における多様な森林整備



# 森林・林業基本計画 ～百年つづく森の国・木の街へ～ （令和8年6月閣議決定）

## 林産物の供給及び利用に関する目標

望ましい森林の整備・保全が行われた場合の木材供給量、今後の需要動向を見通した上で、諸課題が解決された場合に実現可能な木材利用量を目標として設定

### ＜木材供給量の目標＞

（単位：百万㎥）

| | R６年（実績） | R12年（目標） | R17年（目標） |
|---|---|---|---|
| 木材供給量 | 35 | 40 | 42 |

### ＜用途別の利用量の目標＞

（単位：百万㎥）

| 用途区分 | 総需要量 | | | 国産材利用量 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | R６年（実績） | R12年（見通し） | R17年（見通し） | R６年（実績） | R12年（目標） | R17年（目標） |
| 製材用材 | 25 | 26 | 26 | 14 | 18 | 20 |
| 合板用材 | 8 | 8 | 9 | 4 | 5 | 6 |
| ﾊﾟﾙﾌﾟ・ﾁｯﾌﾟ用材等 | 27 | 26 | 26 | 4 | 4 | 4 |
| 燃料用材 | 23 | 24 | 24 | 12 | 13 | 13 |
| 合計 | 82 | 85 | 85 | 35 | 40 | 42 |

注 1：用途別の利用量は、国産材に係るものである。
2：各用途には輸出を含む。
3：「パルプ・チップ用材等」には、しいたけ原木等を含む。
4：「燃料材」とは、ペレット、薪、炭、燃料用チップである。
5：百万㎥単位で四捨五入しているため、計が一致しないものがある。

# 地域管理経営計画の概要

# 国有林野の管理経営の基本方針

① 公益的機能の維持増進

② 林産物の持続的かつ計画的な供給

③ 地域産業の振興及び住民福祉の向上への寄与

# 地域管理経営計画の概要②

## ○公益的機能の維持増進


坂泰山国有林（紀南森林計画区）

国土の保全


十文字山国有林（江の川下流森林計画区）

十文字山ﾌﾞﾅﾐｽﾞﾅﾗ希少個体群保護林

## ○林産物の持続的かつ計画的な供給


悟入谷国有林（北伊勢森林計画区）

高性能林業機械による造材


三光山国有林（高梁川下流森林計画区）

コンテナ苗造林

## ○地域産業の振興及び住民福祉の向上への寄与


鉢伏山国有林（越前森林計画区）

レクリエーションの森
（野外スポーツ地域）


伊崎国有林（湖南森林計画区）

協定に基づく活動

# 地域管理経営計画の概要③

## 地域管理経営計画の構成

Ⅰ　管理経営に関する基本的な事項（基本方針、主要事業量 等）

Ⅱ　国有林野の維持及び保存（巡視、病害虫の防除、森林の保護 等）

Ⅲ　林産物の供給（木材の安定的な供給 等）

Ⅳ　国有林野の活用（活用の推進方針やその具体的な手法 等）

Ⅴ　国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全等に関する事項

Ⅵ　国民の参加による森林整備（森林環境教育の推進 等）

Ⅶ　その他（林業技術の開発及び普及、地域振興 等）